

## 菊池溪谷に生息する魚類

菊池溪谷の冷たく澄んだ水は、2 種類の魚にとって生息域となっている。**ヤマメ**は泳ぎが速く、体長 35cm にもなるサクラマスの陸封型である。警戒心が強くて内気な性格だが、釣り禁止の溪谷の淵をのんびりと泳ぐ姿が見られる。

1950 年代からの工業化による菊池川の環境変化で、一時は上流域から姿を消したが、ここ数十年の放流努力が実り、現在は天然孵化が可能な個体群とされている。ヤマメが産卵するのは、溪谷の長い方の遊歩道の先にある広河原が知られており、目撃例もこのあたりに多い。菊池溪谷周辺の飲食店ではヤマメの塩焼きが食べられるが、その魚は近くの養殖場から仕入れている。

ヤマメに比べ、**タカハヤ**はかなり小型で、溪谷ではやや多く見られる。緑がかった金色で腹部が白く、体長は 10 センチほどで、西日本の冷たい川の上流域に生息する。山間部では昔から日常食として食べられてきたが、特に美味しいとは思われていない。ヤマメと同様、菊池溪谷では広河原が最もよく観察できる。